

## 【伊藤総領事メッセージ 2020年2月】

カナダ国内には、オタワにある在カナダ日本国大使館に加え、トロント、バンクーバー、カルガリー、モントリオールの4箇所に総領事館が設置されています。これら各公館の館長と外務省本部の幹部との間で、様々な角度から日加関係について協議する「在加公館長会議」が基本的には毎年1回、カナダの公館所在地で開催されています。昨年は1月にトロントで開催されましたが、本年は1月20日にオタワの日本大使館において開催され、私も出席してきました。

国土の広いカナダでは、地域によって抱えている関心事項が異なることもあれば、全カナダで共通の認識や課題もあります。一般的に、カナダ人は日本に対して大変



良いイメージを持っており、カナダの各地において日本食、アニメ・漫画、日本映画をはじめとする日本文化には高い人気があります。しかし、外交や経済を考えるとときには、今でも多くのカナダ人の目は(カナダの東部と西部で若干の温度差はあるとしても)まずは米国と欧州を向いているのが現状であり、カナダから日本への留学生、あるいはワーキング・ホリデーで日本に滞在する人々の数も、日本からカナダへの数、あるいはカナダ

と他の国々(米、豪、NZ等)とが有している実績に比べると少ないと言わざるを得ません。日本を含むアジア太平洋への関心をどのように高めていくべきか、特に、日本とカナダは民主主義、人権、法の支配等の価値観を共有するパートナーであり、この両国がアジア・太平洋地域において「自由で開かれたインド太平洋」を進めていくために協力することの意義と重要性への理解をどのように深めていけるか、という課題も指摘されました。今年の公館長会議が終了した直後にバンクーバーで開催された「自由で開かれたインド太平洋」に関するシンポジウムは、多くの参加者を得て盛況だったと聞いていますが、当地トロントも含めたカナダ全域において、このような取組を引き続き行っていくことの重要性は論を俟ちません。



【動画】自由で開かれたインド太平洋に向けた日本の取組

経済の分野では、カナダ国内でも地域によって取り組む課題が異なります。たとえばアルバータ州、サスカチュワン州、マニトバ州を抱えるカルガリー総領事館では、日本とのビジネスにおいてエネルギー・資源産業の動向や、農産物の輸出等の分野に大きな関心が払われます。オンタリオ州では、日本からも多くの企業が進出している



自動車産業を中心とした製造業が USMCA の下で如何なる影響を受けるであろうかという問題意識が取り上げられます。その一方で、AI や ICT 等のハイテク産業に関しては、「北のシリコンバレー」が位置するオンタリオ州のみならず、カナダ連邦政府が AI のスーパークラスターを設定したモントリオール、AI 研究の

進むアルバータ大学が位置するエドモントン、量子コンピューターや AI 研究の進むバンクーバーなど、カナダ各地に拠点があり、日本の企業や研究者と、世界でも注目を集めているカナダとの間の協力や交流拡大の可能性が認識されました。

在カナダ公館長会議の機会には、カナダ各地で活躍する日系企業の方々と意見交換を行う機会、またこれら日系企業の方々とカナダ連邦政府関係者との意見交換の場も持たれました。カナダ各地域の日系のビジネスマンの団体やそれぞれの地域を代表する産業の日本企業関係者に出席頂き、忌憚のない御意見を伺うことが出来ました。また、日本人駐在員の査証発給問題を含め、連邦政府に対してビジネス環境改善のための御意見を率直に伝えていただきました。

さらに、カナダ各地の日系人コミュニティの代表の方々との意見交換も行われました。日系人コミュニティは、日系人としてのアイデンティティを守る一つ的手段として日本文化を紹介する様々な活動を行っており、私達にとっても心強いパートナーです。他方、各団体の歴史や規模は異なるものの、活動資金の確保や若い世代による参加の確保など、共通の課題も抱えていらっしゃるようです。カナダ国内の日系人団体の間には、すでにカナダ国内でのネットワークが存在しますが、在加公館長会議の機会に各地の日系人団体のトップの方々が集まり、直接に顔を合わせて議論を行えることは意義のあることのようにです。

今年もこの会議を通じて、カナダ各地の日本の在外公館が知恵をこらして様々な取組を行っていることを知ることが出来ました。これらを参考に、オンタリオ州において対日理解を一層深め、カナダのパートナーとしての日本のプレゼンスをさらに大きくしていきたいと、改めて決意をした次第です。